

北陸石仏の会々報

富山県立山町宮路・岩嶺寺集落の路傍の石仏たち

尾田 武雄

立山町宮路・岩嶺寺の石仏調査は、平成二年に立山町婦人ボランティア養成講座の一環として行われ、立山町教育委員会が『立山町の石造物』で報告されている。それを参考に精査した結果二十一体の石仏を確認した。おおよそ県内各地の路傍にある石仏は、地蔵が圧倒的に多く、観音や不動明王など散見するのが普通のパターンである。ところが宮路・岩嶺寺界隈の石仏は地蔵が二体、馬頭観音が二体、十一面観音が二体、聖観音が一体である。道祖神二体や鹿嶋大明神などは珍しいが、とりわけ剣を持つ秘鍵大師二体、虚空蔵菩薩一体、文殊菩薩一体は特にこの地を特徴付ける石仏だろう。また二十一体中に、不動明王三体を合わせると七体も剣を持つお姿であることも驚きであり、岩嶺寺集落から見える剣岳に関係するのであるのか。岩嶺寺雄山神社前立社壇に境内社刀尾社の地主神があるが、『和漢三才図会』には、有頼が白鷹を追って岩嶺村で、右に剣を掲げ、左に念珠を持つ当山の刀尾天神に逢って鷹の行方を尋ねている。この刀尾天神も剣のイメージが注意されている。墓地の中にある石仏は地蔵が最も多く、錫杖と宝珠を持つ延命地蔵や、宝珠を両手で持つものや合掌仏が多く見受けられたが、これは死者供養によるものである。また大日如来は胎蔵界大日よりも金剛界大日が多く、腹前に五輪塔を頂く弥勒菩薩も墓地にはあった。これらは真言宗系の檀家墓地に見ら

第40号

平成24年4月25日発行

編集と発行

北陸石仏の会

(日本石仏協会北陸支部)

代表 北村市朗

〒939-1315

富山県砺波市太田

1770 尾田武雄方

電話 0763-32-2772

振替 00740-2-11974

(年会費 3000円)

20周年

北陸石仏の会は今秋創立20周年をむかえます。記念行事や研究紀要特別号発行を計画中です。紀要の原稿を募集しております。



れる光景である。聖観音や如意輪観音、千手観音等々もあり阿弥陀如来像もある。石仏は全体的に浮彫が多くあり、無縫塔には梵字キリク（阿弥陀如来）が多く刻まれているのが気になった。現在、立山町で「岩嶺寺石造物調査」が行われているが、その成果が期待される。（写真は文殊菩薩）

正間峠の道祖神

平井 一雄

仁歩郷土誌「仁歩の村々のあゆみ」平沢村（ヒラソ）の章に正間峠の道祖神の写真がある。

三ツ松出身の電力OB、坂本光作氏に同行を頼み、平沢村を訪ねた。

正間峠の場所がわからず集落の最終の家に入り道を尋ねた。

その家の主人に聞いた切り通しのところを過ぎて、道の縁に「仁歩用水その歴史」の案内板があった。

行き過ぎたことに気づき、少し戻った先の切り通しの高台にそれらしき石積みを見つけた。

『仁歩郷土誌』の記述を引用する。

「昭和の初期まで、利賀や栃折方面から正間を通って、平沢・三ツ松・八尾に通ずる道路は一〇一、五メートルの山道が主要道路で、正間峠と言われる西山を越えていた。

昭和四年頃から八十島から大長谷の島地に向かって県道の開設が計画された。この区域は昭和五年から六年にかけて工事がなされた。西山の古宮の地点は約十メートル余りの掘割によって地盤が下げられた。ちょうど元の道の頂点を掘り上げたので、交差点に置かれていた道祖神の標石はその意義がなくなったので元の道の側溝の上の方に安置した。

昔からここを古宮と称し、この石標をお守りしてきた。交通の安全を願い、また道祖神として祀ったものと思われる。毎年春祭りには獅子舞を奉納している」

以上の記述により、探しあてた石積みはこの道祖神と判明した。

石積みの上に置かれた道祖神はバンの種字を刻む中世板碑である。高さ三十六センチ、幅十七センチの方形板碑である。

頭部は磨耗がひどく方錐がはっきりしない。

古宮と言われているとすると、中世の落武者が住み着いて草分けとなり、その人たちの墓標が無縁仏となり、道祖神や道標に転用されたのだろう。大玉生や小井波の集落にも中世板碑や五輪塔の残欠が残り、中世から戦国時代の武士団の移動を考える貴重な石造遺物と考えている。



婆珊婆演底主夜神

滝本 やすし

石川県中能登町(旧鹿島町)と富山県氷見市の境に石動山がある。中世より天平寺という寺院が栄えた場所である。このあたりには中世から近世にかけての石仏や石塔が数多く点在している。その天平寺大宮坊跡に見慣れない文字が刻まれた石塔が建てられている。

砂岩製の自然

石で、片面の上部中央に「バン」左右に「ア」「ウー」の種子を刻み、その下には「婆珊婆演底主夜神」の文字を刻む。「バン」は金剛界大日の種子、「ア」は胎藏界大日の種子であり、「ウー」は不動明王の種子と思われる。もう片面の上部には一字金輪の種子「ポローン」が、その下に「天潮拜」の文字が読み取れる。



文字の刻み方の様式から、江戸時代中期以降の造立とみられる。天潮という人物が建てたと思われるのだが、婆珊婆演底主夜神(ばさんばえんていしゅやじん)とはいかなる神なのであろうか。どうやら華嚴経に説かれている神様らしいのだが、手がかりが少ない。

二年ほど前の事であるが、北村会長と池田さんと私の三名で京都・滋賀方面へ石仏や石塔の探訪に出かけた。京都市内では浄土宗総本山知恩院、大本山百萬遍知恩寺、大本山清浄華院、そして檀王法林寺などを拝観した。

事前に下調べをしていたところ、檀王法林寺に婆珊婆演底主夜神の木像が安置されていることがわかった。

出発前に電話を入れておき、訪問の予約をしておいた。本堂に上がりご本尊を拝ませてもらった後、厨子に納められている主夜神像を拝観させていただいた。残念ながら写真撮影はお断りということであったが、赤い衣をまとった美しい姿に皆で息を飲んだ。



主夜神絵像 写真提供檀王法林寺

婆珊婆演底主夜神は、華嚴經入法界品に「恐怖諸難を取り除き、衆生を救護し、光を以つて諸法を照らし、悟りの道を開かせる」と説かれている。

ご住職の話では、主夜神信仰は全国的にも極めて稀であるという。檀王法林寺では主夜神の使いとされる黒い招き猫も、人々の厚い信仰を集めているとのことである。

檀王法林寺の本堂前には、袋中上人書の大きな名号塔が建てられている。縁起によると、袋中上人は天文二十一年、現在の福島県いわき市に生まれ、慶長八年に「われは華嚴経説き給ひし婆珊婆演底主夜神なり、専修念仏の行者を擁護すべし」という主夜神のお告げを受け、慶長十六年に檀王法林寺を開山して主夜神像を本堂内に安置したとされている。

さて石動山に建てられている主夜神の文字を刻む石塔であるが、あらためてこの石塔の前に立つと、檀王法林寺で拝見した主夜神像が目に見えなくなる。飾り気の無い文字塔が、美しい神像に見えてくるのである。どのような経緯で建てられたのだろうか、様々な思いがよぎってくる。

例会報告 石の里・小松市の石仏めぐり

松井 兵英

私は歴史音痴なのです。でも白州正子さんの歴史紀行などを読んでいると、観光客や車がせわしく行き交う現代の風景の底から、千年以上前の出来事があり、ありと目の前に浮かび上がって来るような不思議な感覚に打たれます。街道や石仏や神社に接すれば、少しは歴史と親しくなれるでしょうか？ そんな気持ちで諸先輩にまじり、小松市の石仏めぐりに参加しました。

各見学場所の解説は滝本先生の資料に詳しいので、巡った場所の私なりの印象を記します。

○三光院 光導名号塔

念仏行者光導の丸文字（団子）名号塔は数年来、「石仏の会」の先輩方たちの研究テーマになっていて、最初の数例が今では数十例まで発見されているようです。行者の足跡を歩き、ゆかりの人たちから聞き取りされたり、地道な調査の結果、光導行者の生い立ちや人物像まで明らかになってきています。歴史の片隅に埋もれていた光導行者を掘り起こし、その人柄までも蘇らせることは調査研究の楽しみであり醍醐味なのでしょう。先生方の熱意とご尽力には頭が下がります。

○那谷寺 大悲閣 青面金剛 七重石塔

有名な那谷寺ですが、私は始めてです。真言宗の寺院らしく、多くの建物や石像があり、目にも賑やかです。紅葉には少し早かったのですが、境内は自然と人工庭園の合作のようで絵葉書的な美しさです。簡単に加工できる岩盤なのか、至る所に階段が刻んであります。解説で「美しい女性像」と書いてある弁天様にお会いできなかったのは残念です。大悲閣はよくある胎内くぐりですが、入口に立つ古風な箱獅子のような顔をした狛犬たちが印象的でした。丸彫りの青面金剛像はどういう由来なのか、ここでは「縁

結びの神」と呼ばれています。七重石塔は石造ながら、岩の上から見るとグライダーのようにすっきりと軽快な感じですが、時間が限られていたので、もう一度訪れてゆっくりと廻りたいと思いました。

○滝ヶ原 採石場

採石場は初めて見ます。山の片方からベンチカットしていくのかと思っ
ていましたが、以前の採掘跡があり、山の中腹に四角い穴が掘られて石造の神殿のようです。現在の採掘場はトンネルのような坑道が三百メートルほど奥へ延び、チェンソウで切り出しているとのこと。垂直な両壁にわずかに切り目が残っています。残念ながら切り出す様子は見学できませんでしたが、社長さんがいろいろと説明してください、凝灰岩（火山灰の堆積岩）のなかに樺や柿の木の化石（珪化木）が存在していることなど聞きました。その木の成長の年月と、火山灰が堆積した年月と、石化していった年月・・・を思うと気が遠くなるようです。

○丸竹橋

橋は、土木屋の私には親しいのですが、石橋となれば、なおさら興味が
増します。公式どおりきれいに加工された「輪石」の中央にキーストーン（楔石）を入れてあります。明治末から昭和初めとのことで、西洋のアーチの原理が入ってからのものです。昔の人は身近な材料と手持ちの技術で、生活に必要なものを創りだしていた。（これぞ、ブリコラージュ！）

○八幡神社 石塔、岩窟内五輪塔

石の産地らしく、大きな玉を抱えた狛犬をはじめと多くの石造物が
あります。中世の石塔と種字が彫られた岩窟があり、どういう場所だった
のでしょうか。ここから白山は遥拝できるのでしょうか？ きちんと調査
されれば、剣岳下の富山県上市町黒川遺跡のような大規模な宗教施設が埋
もれているのかもしれない。

○粟津温泉 大王寺

ここで昼食、恒例の北村先生の奈良漬を頂きました。御馳走さまでした。
温泉街のなかにある真言宗のお寺、いろいろな像があります。多くの観

音様で埋まる地藏堂。不動堂では「大岩山不動明王」の石祠と大岩不動の模彫。(きちんと二童子と阿弥陀と僧形がある、粘土の型押のようにも見える)でも、ここまで来てどうして大岩なのでしょうか。それほど「大岩の不動様」は有名で霊験があったのでしょうか。修験者や巡礼者のネットワークがあったのかもしれませんが。

泰澄大師像は丸彫で力感と威厳があります。福井・石川では、古い寺社の多くは白山信仰と泰澄に関連があるようです。「わが立山の有頼君」は鷹だの熊だのに導かれて、それとは知らずに立山を開山した(他力的)のに対し、泰澄は自らの強い宗教心で白山を開いた、その意志に満ちた姿です。

○牧口町 牧姫塚、蟬丸塚

牧姫も蟬丸も、それ以前からあった何かの言い伝えが変形して地元に残ったのでしょうか。教育委員会の説明板がありますが、木柱は倒れています。古い五輪の塔と石塔ですが、狭く細長く歩きにくく、植え込みが邪魔でよく見えません。以前はもつと塚らしい形だったのが、耕地の関係でこんなに細長く削られてしまったのでしょうか。

これは各地の史跡や文化財に共通して言えることでしょうか教育委員会などより、もつと地元の人たちの愛情がほしいです。

○観音下 日華石採石場

採石場に近づくにつれ、塀や家の壁に黄色い石材が使用してあります。滝が原の石より軟質で、ここは露天掘りです。空洞が多く持ち上げると思ったより軽いです。色といい地肌といい「富山銘菓・月世界」を連想します。ここでもチェンソウを使っていて、刃は外してありますが、構造は良くわかります。水平な基面にレールを載せ、この上で機械を移動させながら、縦横の長方形に切れ目を入れる。残った底面を一段下の基面に機械を置いて水平に切り角柱状の石材を切り出す。先に見た滝が原では「セリ矢」がありました。ここでは「ノミ」しか見ませんでした。やはり割りやすいのでしょう。

○市営墓地 千体仏供養塔

市営にしては雑然とした墓地で、近頃の「公園墓地」とは異なります。きつと昔からの墓地が市の管理に移ったのでしょうか。墓石の文字が多様なのが、富山人から見ると珍しく感じられます。「千体仏供養塔」は2メートルくらいの石柱が2本並んで建ち、小さな浮き彫りの仏像がたくさん彫ってあり、例のないものです。私はインドの釈尊伝のレリーフを連想しました。「大火か疫病の供養碑だろう」、「苗字の記入があるから、明治以降だろう」、「無縁墓のタグが付いているが、処分されず何とかこの場所での文化財として保存してほしいものだ」とは皆さんの共通した気持ちなのでしよう。

これで今日の見学場所は終わりです。

「石の里」にふさわしく、多様な石造物たちと石切り場にも中まで入って見学でき、滝本先生からは詳しい解説と石材のサンプルまで頂きました。秋の一日、好天に恵まれて楽しく見学することができました。

何より北村会長先生をはじめ先輩の皆様のお元気な姿と、旺盛な研究心に触れることができたことが一番の収穫でした。有難うございました。



北陸石仏の会 第44回例会のご案内

— 福井市(市街地～西部地区)の石仏めぐり —

平成24年5月27日(日)

参加費:5000円(バス・資料代)

集合場所:①大沢野文化会館 6時40分 ②JR 砺波駅南口 7時30分

③JR 金沢駅西口 8時20分 ④福井鉄道花堂駅 9時30分

申込方法:次の事項を記入の上、ハガキでご連絡ください。

住所、氏名、電話番号(携帯電話も)、集合場所

申込先:〒939-1315 砺波市太田 1770 尾田武雄方 北陸石仏の会事務局

締め切り:平成24年5月20日

福井市には東部地区の一乗谷に多くの石仏がありますが、他の地区にも多彩な石仏がみられます。今回は福井市街地～西部地区の石仏を訪ねたいと思います。[案内:滝本やすし]

- 江守中町 路傍／八臂弁財天
- 江守中町 江守神社(来仰寺址)／一石五輪塔(応永23年)、善光寺式阿弥陀三尊
- 足羽1丁目 足羽山麓寺院群めぐり [妙観寺、妙永寺、安養寺、東雲寺、運正寺、一乗寺]
- 足羽3丁目 法興寺／祐天名号塔(文久3年)
- 若杉1丁目 泉通寺／三面名号塔(天保14年)…祐天・義賢・典禪の各名号
- 狐橋2丁目 浄土宗教会／義賢行者墓標(明治29年)
- 下天下 加茂神社／青面金剛(元禄2年)
- 北堀町 路傍／百萬遍利剣名号塔(明治39年)
- 深谷町 路傍／三尊磨崖仏(弘治2年)…観音?、不動明王、毘沙門天の三尊
- 南檜原町 善光寺堂／異型善光寺式阿弥陀三尊磨崖仏
- 佐野町 路傍／苦行釈迦

※諸事情により見学先を変更する場合があります。ご了承ください。



妙観寺多宝塔



百萬遍利剣名号塔



異型善光寺式阿弥陀三尊磨崖仏



苦行釈迦

平成24年度の会費を、同封の振替用紙にて納めてください。年会費は3000円です。